

防災だより

その75

ページID 3343

大震災の節目に、備えを

防災専門官 野田 秀敏

1995年1月の阪神・淡路大震災から30年、2005年3月の福岡県西方沖地震から20年が経過しました。

6,434人の死者がでた阪神・淡路大震災以降も、全国で活断層による内陸直下型地震がくり返し起き、最大震度7を記録した大地震はこの30年間で7回、約4年に1回のペースで大地震が発生しています。

内陸部で地震を引き起こす活断層は、全国に約2,000あり、毎年、政府の地震調査研究推進本部が、長さ20km超の大きな影響が予測される活断層について、今後30年以内の地震発生確率を発表しています。

県内には7つの主要な活断層があります。中でも福岡市から太宰府市を縦断している警固活断層（陸上部約27km）は、最も危険度が高い「Sランク（地震発生確率0.3～6%）」に指定され「マグニチュード7.2、最大震度6強」が想定されています。

阪神・淡路大震災は0.02～8%、熊本地震はほぼ0～0.9%と低い地震発生確率でしたが、突然、激しく揺れ激甚化して多くの被害が発生しました。

警固活断層による地震も、いつどこで発生してもおかしくない状態にあり、常日頃から備えておくことが大切です。



参考：福岡県地震に関する防災アセスメント報告書

活断層とリスク評価

断層名	想定マグニチュード	ランク	発生確率
① 警固断層（南東部）	7.2程度	Sランク	0.3～6%
② 宇美断層	7.1程度	Zランク	ほぼ0%

4段階でSランクは最も危険、Zランクは3番目に危険

地震が起きる前に、

備えておく5つのこと

家具の固定や防災グッズの準備



避難経路・場所の確認

家族との連絡手段の確保

地域の防災訓練への参加

継続的な防災・減災への取り組み



消防署からのお知らせ

問い合わせ 太宰府消防署 ☎ (924) 4119

地震による火災の事例

- ・損傷した配線などに通電し、発熱発火する。
- ・転倒したヒーターに燃えやすいものが接触した状態で通電し、着火する。



地震による火災を防ぐ 感震ブレーカーの設置を！

予防方法

感震ブレーカー（右図）を設置すると、地震を感知した時、自動的にブレーカーを落として電気が止まります。



4月6日(日)～15日(火)に春の交通安全県民運動を実施！

問い合わせ 防災安全課 防犯安全係 ☎内線549

例年、入園・入学シーズンの4月以降、幼児・児童の歩行者が犠牲になる交通事故は増加傾向にあります。

1件でも多くの交通事故の抑止を図るため、歩行者も運転者も、より一層の注意をお願いします。



ページID 19731